



みんなでフェルト手袋 (牛河内サロン)

今年も南相馬市に野馬追の季節がやってきました!

野馬追とは国指定重要無形文化財で「一千有余の歴史を経て、今なおいきづく相双地方に伝わる伝統の祭り」それが相馬野馬追です。震災から4度目の相馬野馬追です。

震災の年、あの年だけは相馬から北郷(南相馬市の一部)までと、規模を小さくして野馬追の伝統文化を守りました。伝統のお祭りさえも行えない程の状況でしたから・・・。

牛河内第一仮設住宅には、毎年野馬追に出陣されている方がいます。野馬追が、地元を活気づけ、生きる力も与えてくれました。

震災翌年の野馬追は、まだ規模が小さいながらも、野馬追が開催される事に地域の復興が叶う望みにもなりました。

その翌年は規模も戻り、南相馬に力を与えてくれました。

仮設住宅から出陣される方は、自宅が流失してしまい、儀式である出陣式を、集会所の前で行いました。手を伸ばせば”お馬さん”に触れる事ができる位の大迫力を間近で感じました。

「今年こそは、自宅から出陣したい!!」の想いで住宅再建に大忙しです。

集団移転を待ちわびていた住民の多くは着工が始まり、住宅を再建されてからもサロンに足を運んで来られる経験者の方に、手続き等で不安な事を聞いたり、新しい場所での生活の注意点を確認したりと、新天地での新しい生活を今か今かと心待ちにしている一方、年配の方が多いため、手続きの多さや複雑さに頭を抱えてい

ます。

牛河内第一仮設集会所「真こころサロン」の活動も3年9ヵ月目入りしましたが、開設当初と変わらない「お茶の間」のような明るい雰囲気の中で、日々の情報交換はもちろんのこと、マッサージ器を利用したり、手芸やパッチワーク教室に参加したり、利用する人達それぞれが楽しめるサロンを、これからも続けて行きたいと思えます。

牛河内第一仮設住宅集会所
和みサロン「真こころ」
佐藤久絵





寺内第一サロンで行われるさまざまなイベント

真こころの活動を始めてもう直ぐ4年、震災から4年2か月が過ぎました。

仮設住宅の暮らしにもすっかり慣れ、あの時の落ち着かない気持ちが嘘のようです。

仮設住宅が新しい生活の場になり、集会所は新たな親戚付き合いの様な場になっています。

住民の方々がサロンで過ごす毎日の時間が、生活の一部になっているのを見ていると、仮設住宅を出た後の事が心配になってきます。住み慣れた場所から引き離され、好むと好まざるとにかかわらず、住むことになった今の仮設住宅の暮らしですが、それでも4年という月日が今のコミュニティを作ってきました。いつかは仮設住宅を離れることになります。新しい場所では、今までのような近所付き合いが無くなり、仮設でようやく馴染んだ関係を、また新たに作って行かなければなりません。仮設に入った頃の引きこもった生活に戻らなければいいと願っています。

津波被害の方は、家の再建、公営住宅への入居などをされ、殆どの方は先が見えて来た様に感じます。それぞれ自己再建、集団移転、公営住宅へ入居、これまで住み慣れた土地を離れ子どもの住む土地

へ移住される方、まだ答えを出せないと、考えるだけの時間をただただ過ごす方など、10人いれば10通りの悩みがあります。

現実には答えを出さなければいけない時期ですが、震災から4年2か月、考える時間が長すぎた事も、先を決める事が出来ない理由になってしまったのかもしれない。

そして、これからは原発から20キロ圏内の方も住む場所を決めていかなければいけません。

震災以前の家に戻る方、別の土地に移転する方、小高区内の公営住宅に住む予定の方、そして考える事ももう投げ出した方。人の出入りが無い家は、家と呼べない状態になっている事も多いです。

長くなればなるほど、難しい選択になっています。これから先の事がまだまだ不透明な状況で、真こころの活動の終わりは見えません。

真こころの活動を振り返る意味でも先日住民の方々にアンケートをお願いいたしました。アンケートに応じてくださったほとんどの方は「真こころ」を利用してくださっていました。

利用されていた方は、お茶を飲み、そして、話しをするのを楽しみに利用してくださっていること

がアンケートからうかがえました。また、「真こころ」にこなくても、集会所がいつも開いていることで安心ですと答えてくださった方もいらっしゃいます。

仮設住宅の住民の方々の動きがでてくる今後も形を変えても、人と人を繋げる活動が必要だと強く感じました。

仮設住宅が縮小される話も出ている中、状況に対応できる形で、真こころの活動が続けていければと思います。これからも「真こころ」の活動の応援、よろしく願います。

寺内第一応急仮設集会所
和みサロン「真こころ」

松野 美紀子



あの日から4年

災害に合い、仮設住宅で生活を余儀なくされている報道は幾度も目にしてきましたが、自分がこの道を歩もうとは思いませんでした。

犠牲になった方々にはお気の毒ですが、義父が入院中で幸いをなし、家族は無事でしたが一瞬にして全てを失い絶望感のみであったように思います。

「アア」の溜息で始まり「アア」の溜息で一日が終わる日々でした。

震災の年、5月末にこの寺内第一仮設住宅に入居し丸4年の歳月、はやいですね・・・。
走馬灯のように過ぎ去りました。

今では20㎏圏外の多くが新居を求めるとは至りましたが『真こころ』サロンでのおもてなしは皆さんにとりまして最高の『癒し』の場であり、いつまでも心に生き続ける事と思います。国内はもとより世界中の方々から心温まる支援やメッセージも、サロンの開設があったからこそ。私たち入居者は大変助かっております。

御尽力くださいました方々に、改めて感謝申し上げます。

今年は荒野の田も稲が作付けされ、青々と成長を見て元気をもらった様な気もしますが、秋の収穫も気になり不安です。『南相馬市の米！大丈夫！』を期待しています。

気兼ねなく利用できる『真こころ』サロン、明るく迎えてくれるスタッフの方、気配り、目配りがとても上手、甘えてばかりはいたしません、心の拠り所となる『真こころ』サロンこれからもよろしくお願い致します。

寺内第一仮設住宅 松浦 和



写真：完成！手芸飾り（上）
楽しい歌のイベント（左）（寺内第一真こころサロン）

ご支援いただいた方々

2014年11月～2015年5月（順不同、敬称略）

（個人）天津木桂子、荒瀬佐登美、石川悦子、市川益子、伊藤佐恵子、稲毛智恵子、小川輝子、小倉眞智子、大塚恭子、重田秀夫、岸秀雄、北濱純子、木村得夫、河野和子、木村協子、佐藤、澤美由紀、末盛陽子、須澤千恵、菅本義子、助友信子、外山経子、中島知子、野寄一夫、蜂巣益夫、服部、早坂薫、半場、日浦時子、藤井恭子、藤井芳子、森山伸彰、埼玉深瀬、高野郁子、二宮圭子、榎崎知行、泉塩子、山川晃子、松岡彰、高井スマ子、栗林由美子、宮崎直子、長瀬三千子、山下智樹、ユキ・ジョンソン

（団体等）カトリック磐田教会、カトリック久留米教会、カトリック高蔵寺教会、カトリック垂水教会シナピス委員会、カトリック垂水教会コールボップ、カトリック鷹取教会、カトリック田園調布教会、カトリック鳥取教会、カトリック新潟教会、カトリック仁川教会、カトリック西千葉教会、カトリック原町教会、カトリック原町教会コンコルディア、カトリック松原教会、カトリック大阪北地区社会活動委員会、カトリック雪ノ下教会、聖ヨゼフ教会、高崎友の会、アズマ工業、八事聖霊幼稚園、城星学園、宇都宮海星女子学院、神戸海星女子学院、仁川学院中学・高等学校、イエスのカリタス修道女会、援助マリア修道会、ケベックカリタス修道女会、熊本ジェーンズワイズメンズクラブ、東京ビューティーチーム、ピースポート参加者、聖霊病院

震災から4年が経過し、集団移転で自宅を再建し引っ越しをされた方や災害公営住宅に引っ越しをされた方が増え、仮設住宅に空き部屋が目立って来ました。小高区の方も避難解除に向け、住宅の建て替えやリフォームを始めた方もいます。またこれからどうしたら良いのか考え中で足踏みをしている方もいますが先が少し見えて来たように思います。

引っ越しをされたお年寄りの人は、仮設住宅に暮らしていた時より会話が少なく「集会所で過ごした日々がとても懐かしい！サロンで過ごした日々が幸せだった。サロンに行ってみたいけど、交通手段がなく行けないんだ。」と言います。生活環境の変化になかなか慣れず、寂しい思いをしているようです。新しい移転先で大変かと思いますが、1日も早く自分の居場所を見つけ元気に、過ごしてほしいと思う事しか出来ません。



真こころの活動に携わり、人と人の繋がりがとても大切である事を感じました。



これからも、住人のみなさんのコミュニティの場として、サロン活動に従事して行きたいと思えます。

角川原仮設住宅集会所
和みサロン「真こころ」佐藤智子



たこ焼きパーティー

真こころ なごみ通信 第4号発行に寄せて

いつも「真こころ」をご支援くださり心より感謝申し上げます。あの忌まわしい惨劇から早4年3か月を経過しました。未だ変わらない生活環境、時と共に薄れ行く感情、風化して行く震災への意識、限られて来た復興支援。その中に於いても、自らの決断により住宅再建等新たな活路を見出すべく旅立って行かれる住人の方が増えて参りました。住み慣れてしまった仮設住宅から新天地での再スタートは、ご年配の方々にとってはとても困難を極める事と拝察します。

真こころとしましては、移り行く新たな居住の場でも懸念されるコミュニティの再構築に尽力し、被災住人の方と最後まで寄り添い歩んで行く所存であります。今後とも皆さまの変わらぬご支援をいただけます様お願い致します。

文末に当たり、梅雨を向かえ体調を崩し易い時期となりました。皆さま何事にも無理をなさらず、くれぐれもご自愛くださいます様お願い申し上げます。

真こころ代表 内田 雅人

2014年度会計報告 (2014年1月1日～12月31日)

(単位:円)

収入の部	金額	備考
受取寄付金	2,663,575	
受取助成金	0	
その他収益	512	
前期繰越	7,680,385	
収入計	10,344,472	

支出の部	金額	備考
寺内サロン	2,197,319	
牛河内サロン	1,828,828	
角川原サロン	1,833,547	
運営費	338,015	
支出計	6,197,709	
収支差額	4,146,763	次年度繰越

あたたかいご支援ありがとうございます。

真こころ なごみ通信 Vol. 4

2015年6月20日発行

和みサロン真こころ

発行責任者：内田雅人

〒972-2333

福島県南相馬市鹿島区寺内字前田 96

TEL: 070-6951-2200

E-Mail: matuno100100@yahoo.co.jp

WEB: <http://salonmakokoro.wix.com>

真こころをご支援ください

郵便振替口座：02290-0-136053

加入者名：真こころ